



なかとみのかまたり

中臣鎌足は、どんな人だったの



そがし 蘇我氏をたおして、たいか 大化の改新を実行し、ふじわら 「藤原」
の姓をおくられた人だよ。

中臣鎌足は、614年にやまとのくに (奈良県) で生まれました。中臣氏は古くから、
ちやうてい 朝廷の神事 (神に関するぎしき 儀式) をつとめる家がらです。本名は鎌子で、いつから
鎌足になったのかは、わかりません。子どもころから学問を好み、ずいとう 隋・唐から帰
国した留学生・がくもんそう 学問僧からも、教えを受けました。

蘇我氏をたおす計画を立て、実行した

鎌足は、せつつ 摂津 (大阪府・兵庫県) のみしま 三嶋の別荘に住んでいる時期に、国の政治を
かいかく 改革するには、蘇我氏をたおさなければならない、と考えるようになりました。そ
して、なかのおえのおうじ こうぎょくてんのう おうじ 中大兄皇子 (皇極天皇の皇子) とともに、蘇我氏をたおす計画をねりまし
た。さらに、蘇我氏の一族ではあるが、いるか 入鹿と仲が悪かったそがのくらのやまだのいしかわまる
(蝦夷のおい) を、味方につけました。

大化の改新を実行した

645年に蘇我蝦夷・入鹿がたおれると、皇極天皇が退位しました。中大兄皇子
は、鎌足のすすめにしたが 従って、皇極天皇の弟のかるのみこ 軽皇子を天皇 (孝徳天皇) につけ、
自分は皇太子になりました。鎌足は、ないしん 内臣 (「うちつおみ」ともいう) という目立
たない役職につきましたが、実際には、中大兄皇子の直接の家来・相談役で、皇子
と二人で政治のじっけん 実権をにぎり、大化の改新とよばれる政治改革を実行しました。

「藤原」の姓をおくられた

669年、56さい 歳の鎌足は、おうみ 近江 (滋賀県) 大津のやしきで病死しました。その
てんじてんのう 前日、天智天皇 (もと中大兄皇子) は、鎌足にたいしよくかん 大織冠 (最上の冠位) や、「藤原
(ふじわらのあそん 藤原朝臣)」の姓をおくりました。